

【美術博物館】山口県周南市花島町10-16 (0834-22-8880) <http://s-bunka.jp/bihaku/>

【郷土美術資料館・尾崎正章記念館】山口県周南市富田永源 (レゾナック永源山公園内) (0834-62-3119) <http://s-bunka.jp/kyoubi/>



笠間日動美術館
(カワシマ・コレクション)

九谷風鉢

黄・青・緑・紫の華やかで大胆な絵付け。北大路魯山人 (1883-1959) の「九谷風鉢」は、彼の美意識がもつとも濃密に現れた器の一つです。伝統的な九谷の様式を踏まえつつも、魯山人の自由闊達で豪快な個性がよく表れています。

魯山人と陶芸との出会いは、石川県の山代温泉にある九谷焼の窯元、菁華窯からでした。そこで彼は焼きものづくりに興味を覚え、陶工須田菁華のもとで染付や上絵の絵付けを試みました。須田菁華は写しの名人と呼ばれ、染付、赤絵、乾山風など作風は多彩でした。それは後に魯山人の器の多様性のもととなったと言われています。

「器は料理の着物」という言葉の通り、彼は料理の魅力は器によって引き立ち、それぞれふさわしい器に盛ってこそ料理は完成すると考えていました。かような美食の哲学にもとづき、魯山人は40歳近くになって本格的な焼きものづくりに取り組むこととなります。彼の作陶は、轆轤挽きや焼成といった工程のうち、比較的機械的に進められる部分は職人に委ねる一方で、作品の決め手となる形の決定や、削り、叩き、絵付け、釉掛けなどの重要な工程は自ら手がけたとされています。職人の技で整えられた器に魯山人の感性が加わることで、作品は唯一無二の存在感を帯びていきます。彼は北鎌倉の山崎に広大な土地を求め、邸宅とともに登り窯を築き、自身の監督のもと数多くの作品を生み出しました。

さて「九谷風鉢」の鮮やかな色絵は、白いご飯や淡い色合いの煮物、あるいは刺身の色彩を際立たせる背景となります。彼の手にかければ「一碗の料理が芸術作品として輝き始めるのです。」

自作の器に自ら料理を盛ることで、味覚と視覚、触覚が一体となった「総合芸術」を完成させた魯山人。本展では、書や絵画をはじめ料理の味わいを深めるために生まれた独創的な器の数々が並びます。そこには食を中心にして創造された、ひとりの芸術家の精神宇宙が広がっています。

(周南市美術博物館学芸員 今井良枝)

参考文献：「陶芸の世界 北大路魯山人 世界文化社」

「魯山人のうつわ王国」学習研究社

「魯山人の宇宙」笠間日動美術館

— 魂を削る美が欲しい

魯山人の宇宙 6/12(金)-7/26(日)

9:30~17:00(入館は16:30まで) 月曜休館 ※ただし7月20日(月・祝)開館、翌21日(火)休館

観覧料 一般:1,300円(1,100円) 大学生:1,000円(800円)

18歳以下無料

* ()内は前売および20名以上の団体

* 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料

* 本展をご鑑賞の際は、常設展も無料でご覧いただけます

自邸ペランダでくつろぐ北大路魯山人 1955(昭和30)年

← イベント情報は次ページ参照

NHKドラマ「魯山人のかまど」でも使用された作品 約20点を展示予定です。

美術博物館ホームページはこちら



第34回林忠彦賞

「XEPCOH ヘルソン—ミサイルの降る夜に」佐々木 康

授賞式・受賞記念写真展を開催しました。

■授賞式 4月25日(土) 周南市・サンルート徳山

平岡英雄理事長より、受賞者の佐々木康さんに、賞状と目録が贈られました。また、藤井律子周南市長よりブロンズ像が贈られました。

佐々木さんは、「この賞は決して一人で得たものではなく、関わってくださった皆さんと全員で受賞した賞です」と喜びと感謝の気持ちを語られました。

選考委員長の大石芳野さんをはじめ、東京からも佐々木さん縁の方々がお祝いに駆けつけられ、地元のみなさんや、多くの方々と佐々木さんの受賞をお祝いしました。



佐々木さんと出席者の皆さん



受賞の喜びを語る佐々木さん

第二部では、写真家で第22回林忠彦賞受賞者の小林紀晴さんが講演されました。「古層を撮る」と題して、ご自身の出身地である長野県諏訪市に古来より伝わる「御柱祭」の神事を中心に、撮影時のエピソードを交えながらお話いただきました。



講演をする小林紀晴さん

■受賞記念写真展

4月25日(土)～5月10日(日) 周南市美術博物館

受賞作から厳選した68点を5つの章ごとに展示しました。また、佐々木さんの写真が掲載された記事や、ウクライナの子どもの絵も展示しました。

4月26日(日)にはトークショーを開催し、有田館長が佐々木さんに、過去から現在に至るまでどのような思いで写真を撮ってこられたか、お話を聞きました。



観覧風景



トークショーの様子

記念講演会 講師 和食料理人 野崎 洋光 氏

タイトル:「魯山人の味」

日時:6月28日(日)14:00～1時間程度

会場:周南市文化会館 3階展示室

(※申込み多数のため、会場が美術博物館から文化会館へ変更になりました)

定員:100名(先着順)

参加無料 ※ただし観覧券(半券可)が必要です

◆要事前申し込み 電話で美術博物館(0834-22-8880)までお申し込みください

の ざ き ひ ろ み つ

日本を代表する和食の名店を手掛け、伝統的かつ調理科学にも基づく独創的なレシピを数多く考案。NHKドラマ「魯山人のかまど」の料理監修。



魂を剝くる美が欲しい

魯山人の宇宙

学芸員によるギャラリートーク

日時:7月5日(日)、7月18日(土) ※いずれも14:00～ 企画展観覧券をお求めの上、展示室にお集まりください。

LAWSON

ローソンの
フローズンドリンク

ストロベリーフラップ 380円(税込)

チョコレートモカフラップ 395円(税込)

キャラメルフラップ 380円(税込)

LAWSON STATION

ローソン徳山動物園前店 0834-32-8363

※画像はイメージです。

美博クイズ〜!〈149〉 もんだい

北大路魯山人は「食器は料理の○○」という名言を残しているよ。

○に入る言葉はなんだろう?

ヒント 表紙に書いてあるよ。

周南市美術博物館
常設展示

- 常設展観覧料：一般200円(160円) 大学生等100円(80円) ()内は20名以上の団体
※18歳以下および70歳以上無料 ※企画展の観覧券で常設展もご覧いただけます。
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
- 休館日：月曜日

展示室 4 林忠彦記念室

茶室 I ~6/30(火)まで

西芳寺湘南亭は、千家第二代少庵(1546~1614)によって桃山時代に建立されたと伝わる茶室です。苔寺としても有名な西芳寺の境内で最も古く、重要文化財に指定されています。

北側の障子を開けると、茶室からそのまま広縁に続き、庭園が目前に広がります。この広縁は月見台と呼ばれていますが、北向きに造られているのは、空に浮かぶ月を観るためではなく、黄金池に映った月を愛でるためだといわれています。

ほの暗い茶室、日の光に照らされる庭園の木々、木漏れ日があたる露地の苔が対照的に写し撮られています。



「西芳寺 湘南亭 内部と前庭」
撮影 林忠彦

展示室 5 まど・みちおコーナー

今回の内容の展示は
6/30(火)までです。

まどさんは、50歳代初めの3年間に集中して抽象画を描きました。

この作品は、一番最初のもので、黒く塗られている部分も近づいてよく見ると、最初に茶色が塗られた上から黒く塗られていることがわかります。また、ボールペンでぐるぐると、たくさんらせん状のものが描かれています。

自らは動かない「静物」の石を描いていますが、その中に秘めたエネルギーのような動的なものを感じます。

「石」 1961年5月10日
水彩、ボールペン、ひっかき・紙



徳山の歴史 特設コーナー

児玉源太郎と西南戦争 6/28(日)まで

今年は、児玉源太郎の没後120年にあたりです。

特設コーナーでは、児玉源太郎にまつわる錦絵や当時の写真などを展示しています。



びびびの美2026年5月前半号
「児玉源太郎と西南戦争」を紹介しています。



人気絵本「ねずみくんのチョコッキ」シリーズがやってくる!

誕生50周年 **ねずみくんのチョコッキ展** | 8月7日(金)~9月27日(日)

累計500万部を超える
人気絵本

テレビアニメも
放映中

1974年、赤いチョコッキを着たちいさな主人公、ねずみくんが登場する絵本『ねずみくんのチョコッキ』が刊行されました。誕生から50年を迎え、発行部数は累計500万部を超えます。本展では、原画やスケッチなどを中心に、なかえよしを・上野紀子夫妻が二人三脚で作りだした豊かで温かな世界を紹介します。



©なかえよしを・上野紀子/ポプラ社

美博クイズ~! <149> こたえ

着物

魯山人は、「料理をやる人は、食器を勉強しなければいけない。そうしてこそ、初めて日本料理が本格になってくる」と考えていたんだ。

信用金庫ご利用のお客様へ

ATM等のサービス 臨時休止のお知らせ

信用金庫では、システム更新のため、下記の期間

ATM等のサービスを臨時休止させていただきます。

お客様には、大変ご不便をおかけし、誠に申し訳ございませんが、お引き出し・お振り込み等、お早めにご準備いただきますようお願い申し上げます。

ATMコーナーを
休止させていただきます

令和8年
7/19 (日)

※ゆうちょ銀行、他の提携金融機関、コンビニATM、デビットカードサービスはご利用いただけます。ご利用の際は所定の手数料が必要となる場合がありますのでご注意ください。

信用金庫カードをご利用のご家族の方にもお知らせください。ご不明な点は、信用金庫窓口へおたずねください。

東山口信用金庫



ART and HISTORY インフォメーション

周南

周南市美術博物館 ☎0834-22-8880

企画展「魯山人の宇宙」
6/12(金)～7/26(日)

周南市郷土美術資料館 ☎0834-62-3119

コレクション展「時をみつめて」
6/6(土)～8/16(日)尾崎正章常設展「ふるさと福川を描く」
6/6(土)～8/23(日)

岩国

吉川史料館 ☎0827-41-1010

吉川家の愛でたきもの
～今に伝わる品々～ ～6/14(日)

防府

山頭火ふるさと館 ☎0835-28-3107

企画展「令和8年度 新収藏品展」
～7/20(月・祝)

山口

山口県立美術館 ☎083-925-7788

スウェーデン絵画
北欧の光、日常のかがやき
～6/21(日)

山口県立山口博物館 ☎083-922-0294

企画展 絵図と映像で歩く防長の街道
～6/7(日)

中原中也記念館 ☎0839-32-6430

企画展「コラボレーション展示
「萩の陶工と中原中也 土の詩情」
～7/26(日)

萩

萩博物館 ☎0838-25-6447

テーマ展示「海を拓いた萩の人々」 ～6/21(日)

宇部

ときわ湖水ホールアートギャラリー ☎0836-51-7057

野外彫刻リサーチVol.2 セメント彫刻/
After Permanence ～6/28(日)

下関

下関市立歴史博物館 ☎083-241-1080

企画展「壇ノ浦の合戦と阿弥陀寺・赤間宮」
～7/5(日)

～レゾナック永源山公園の中にある美術館～

周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館

- 9時30分～17時(入館は16時30分まで)
- 観覧料: 一般200円(160円) 学生等100円(80円)
()内は20名以上の団体 ※18歳以下および70歳以上無料
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、
戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
- 休館日: 月曜日 ※展示準備等のため6/5まで休館

アクセスは
こちらを
ご覧ください

企画展

中・小展示室

6月6日(土)～8月16日(日)

コレクション展 時をみつめて

当館コレクションより、尾崎正章が活躍した一水会*ゆかりの画家たちの作品を紹介します。本展では風景や人物、静物など多彩な表現をたどりながら、それぞれの画家が見つめた「時」を浮かび上がらせてみます。作品に込められた思いが、観る人の心に深い余韻を残すことでしょうか。

* 有島生馬や安井曾太郎らによって1936年に創立された美術団体

寺井力三郎「地下鉄ホーム」1987年
油彩・キャンバス小川 游「不二無題」2021年
油彩・キャンバス

常設展

大展示室

尾崎正章常設展

「ふるさと福川を描く」

6月6日(土)～8月23日(日)

尾崎正章は、小学4年生頃から福川で育ちました。進学や療養のため一時故郷を離れますが、30代で帰郷し、生涯この地で暮らしました。福川漁港の漁師たち、思い出の中の塩田、工場地帯など、尾崎がとらえたふるさとの風景や、生き生きと働く人々の姿をぜひご覧ください。

「いわし網漁夫習作」1969年
油彩・キャンバス最新の情報は、当館ホームページでご確認ください。 <http://s-bunka.jp/kyoubi/>ミニコラム
ガス燈

最近のマイブームはアイドルのオーディション番組を観ることだ。「アイドルになる」という夢を追いかけ、努力の末にデビューする練習生の姿には、忘れていた何かを思い出させてくれるような不思議な力がある。放送回を重ねるごとに成長していく練習生たちの姿に、私はいつも釘付けになっている。

私にとって夢は遠い存在だった。幼少期から「将来の夢」を聞かれるのが大の苦手で、幼稚園や小学校で先生に聞かれたときも、思ってもいない夢を適当に答えてやり過ごしていた。将来の夢を元気に発表する友人たちを見て、「すごいな」と漠然と思っていた。大人にならなつて日々の生活で精一杯になり、夢と私の距離は更に遠くなっていった。

数年前からとあるアイドルグループを推し始め、私は彼らの情報を追いかけるうちに、ふと気がついた。「私が好きなもの、これ自体が夢なのではないか」と。部屋の中は好きなもので溢れ、手帳にはやりたいことがたくさん書いてある。夢がないと思っていた私の周りには、すでにたくさんの夢が転がっていたのだ。推しに会う、曲を作る、喫茶店巡りをする…など小さな願望こそが私の夢だった。

夢は決して遠い存在ではなく、「これが好き」「ちょっとやってみよう」という思いが夢になっていく。私たちの財団の事業が、誰かの小さな夢のきっかけになればいいなと思いつきながら今日も仕事に向かう。

(久村)